

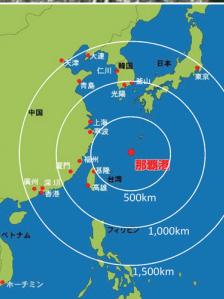


代表電話番号:098-868-2578
URL : <https://nahaport.jp/>



2026年/2027年

那覇港要覧 NAHA PORT



1 那覇港管理組合

《設立目的》

那覇港管理組合は、那覇港の開発発展と利用の促進を図るとともに、適正で能率的な管理運営を行うことを目的として平成14年4月1日に沖縄県、那覇市及び浦添市の三自治体で設立した特別地方公共団体です。

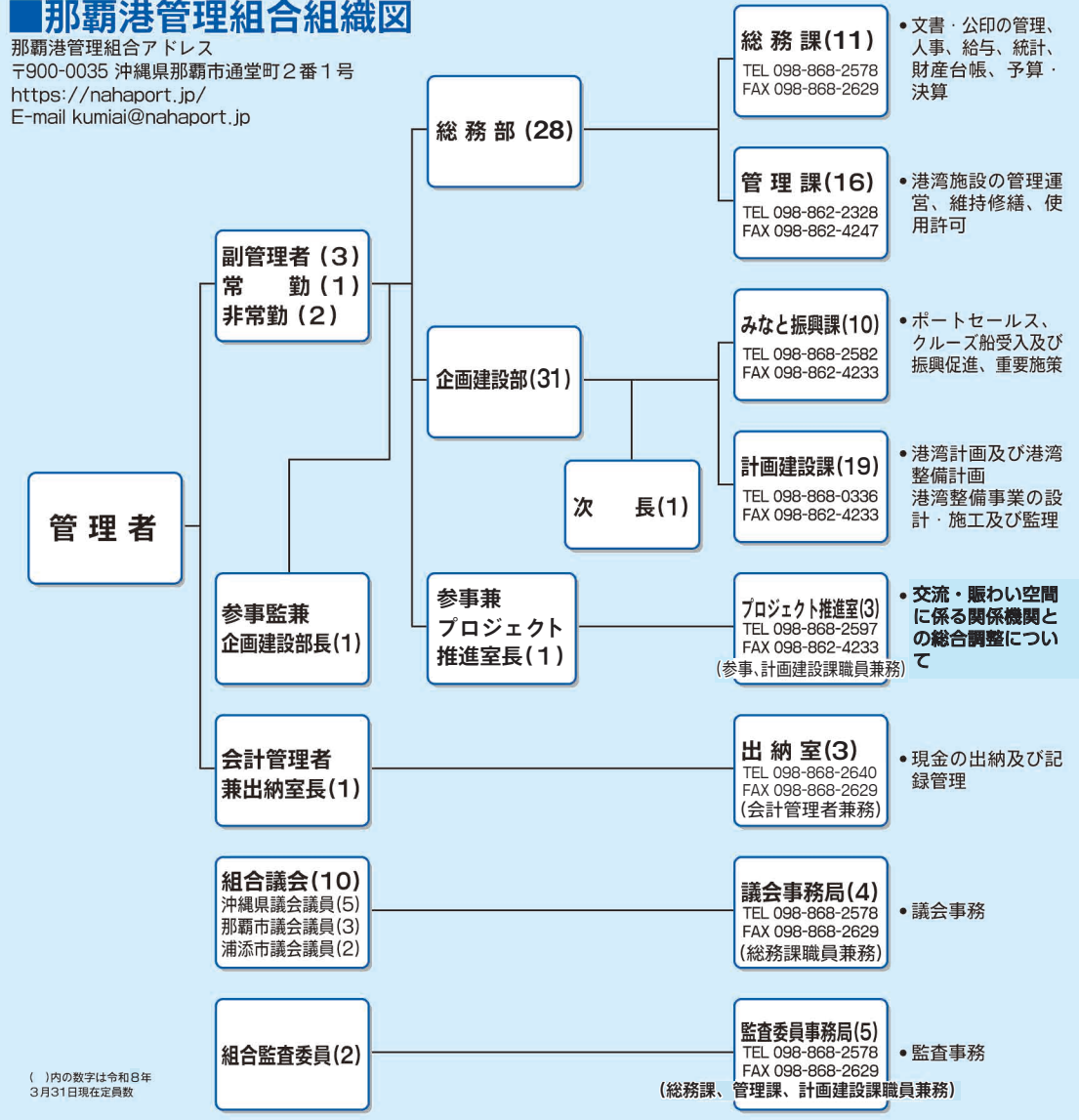
《基本戦略（7つのチャレンジ）》

那覇港長期構想の基本理念『舟楫をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”』のもと、次の7つの基本戦略を掲げ、整備計画を推進しています。

- ①国内外航路及び空港の連携や流通加工機能等を活かした『アジアの中継拠点港』化による航路網の充実
- ②空港との連携や物流・交流・商流の相乗効果による臨空・臨港型産業の集積及び創貨
- ③多様なクルーズを迎え入れ、沖縄の魅力を発信する快適な玄関口の形成
- ④万国津梁のロマンを感じる、国内外の人・物・文化等の交流を生むウォーターフロント空間の形成
- ⑤平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保
- ⑥経済活動と水辺に親しむ豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出
- ⑦人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

■那覇港管理組合組織図

那覇港管理組合アドレス
〒900-0035 沖縄県那覇市通堂町2番1号
https://nahaport.jp/
E-mail kumiai@nahaport.jp



()内の数字は令和8年
3月31日現在定員数

2 那覇港の歴史

《那覇港の概要》

那覇港は、沖縄本島南部、那覇市と浦添市にまたがって位置し、沖縄県の物流、人流の中心的な拠点港湾として沖縄県の経済社会活動を支えており、外国、本土と沖縄、宮古、八重山や周辺離島と連絡する沖縄で最も重要な港湾となっています。

古くは15世紀頃から琉球王府の貿易の拠点として栄え、今日まで沖縄の海の玄関として発展してきた港であり、一部の石油製品などを除き、沖縄で生産・消費されるほとんどの物資が取り扱われています。



▲ 1422年頃の那覇港の絵図（沖縄県立博物館所蔵）

1264年	浦添城を居城とした中山王が泊港（現在の泊ふ頭）を国港として整備。
1422年	沖縄本島の統一を果たした尚巴志王が、那覇港（現在の那覇ふ頭）を中国進貢貿易などの拠点とした。
1972年	本土復帰直前、那覇港・泊港・新港を一体的に管理運営するため、3港を一元化し、那覇市の管理となり、現在の那覇港となる。
1984年	新港ふ頭地区の岸壁（-7.5mから-11m）が完成する。
1997年	コンテナ専用岸壁（-13m）1バースを供用開始（9号岸壁）。
1998年	ガントリークレーン1号機供用開始。
2002年	那覇港管理組合設立。
2003年	那覇港港湾計画（改訂）が承認され、トランシップ港及び海域環境保全ゾーンが位置づけられる。
2004年	ガントリークレーン2号機供用開始。
2005年	「那覇港公共国際コンテナターミナル」の運営事業に関して、那覇国際コンテナターミナル株式会社（NICTI）と賃貸契約締結。
2006年	1月、那覇港公共国際コンテナターミナル供用開始。（10号岸壁）
2009年	9月、旅客専用バース供用開始。
2011年	8月、「那覇うみそらトンネル」供用開始。

3 自然条件

《気象、潮流、海底地質》

気候は暖かい黒潮の影響を受け、亜熱帯性海洋気候に属しています。その特徴として、一年を通じて、気温の変化は少なく、年平均気温23℃、真冬でも10℃前後と一年中温暖な気候で、降雨量は全国に比べて多く、年間降水量平均は2,196mmとなっています。冬から春にかけて北ないし北北東の季節風（11月～3月）が、夏は南東の季節風が卓越します。また台風が夏から秋にかけて沖縄付近を通過しますが、そのうち、那覇港周辺に接近するのは2～3個程度です。潮流は、上げ潮時には北東流、下げ潮時には、南西流が卓越します。流速は沖合部が大きく30～50cm/s、沿岸部で10～20cm/s程度です。海底地質は、上位から10m～15mの沖積層（海浜砂礫）、10m前後の洪積層（琉球石灰岩）、及び第三紀層（島尻層）から成り立っています。

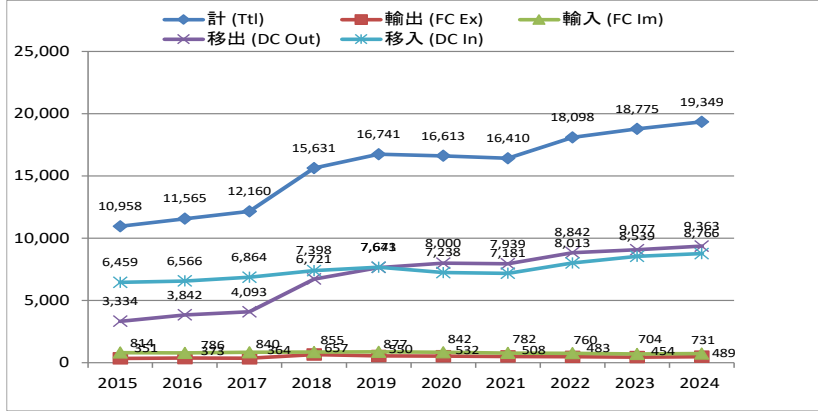
2012年	7月、ボイジャーオブザシーズ初寄港。
2013年	4月、「波の上うみそら公園」供用開始。
2014年	4月、那覇クルーズターミナル供用開始。
2014年	7月、ガントリークレーン3号機供用開始。
2015年	4月、台湾港務株式会社（TIPC）とのパートナーシップ港に関する覚書（MOU）の締結。
2015年	5月、ガントリークレーン4号機供用開始。
2015年	7月、大型クルーズ船3隻同時寄港。
2015年	8月、アジア最大級クワンタム・オブ・ザ・シーズ那覇港初寄港。
2015年	12月、NICTIとコンテナターミナル賃貸借契約を更新。中核企業は三井倉庫株式会社に変更。
2016年	1月、新体制となったNICTIによるコンテナターミナルの運営開始。
2018年	3月、「臨港道路浦添線」供用開始。
2019年	5月、那覇港総合物流センター開業。
2022年	4月、那覇港長期構想の策定。
2023年	2月、第2クルーズバース暫定供用。
2023年	3月、那覇港港湾計画の改訂。

4 港 勢

2024年に那覇港に入港した船舶数は、7,887隻(47,209,658総トン)となっています。船舶乗降人員は1,536,836人で、内外航別にみると57.5%が外航客で42.5%が内航客であり、内航客のうち県内航路が90.9%を占めています。

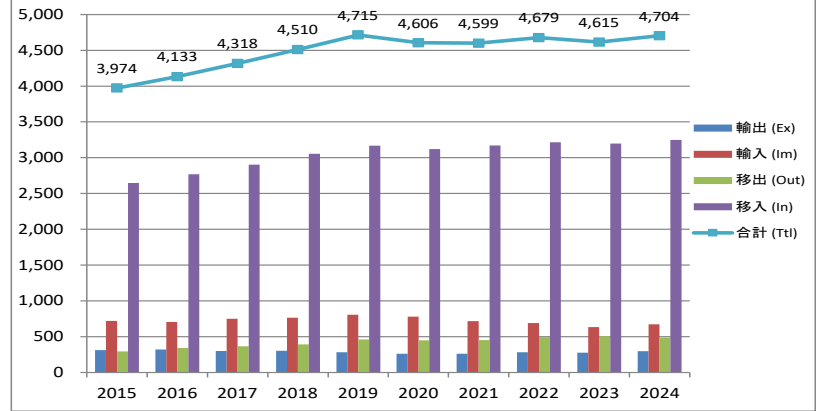
また、港湾取扱貨物量は1,935万トンで、これを内外貿易別にみると93.7%が内貿、出入別にみると輸移出が50.9%を占めています。全体の取扱貨物量のうち、コンテナ貨物は約24.3%を占めています。(2025年12月時点)

海上出入貨物年次推移図 Yearly in Incoming Outgoing Sea-cargo (Kiloton) 2025.12時点



※ FC: Foreign Cargo, DC: Domestic Cargo

コンテナ貨物年次推移図 Yearly Trends in Container Traffic (Kiloton) 2025.12時点

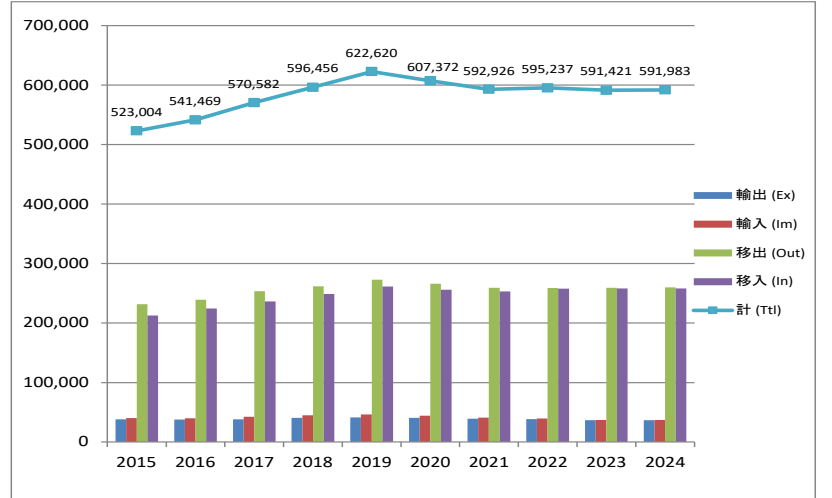


コンテナ貨物年次推移表 Yearly Trends Table in Container Traffic (TEU) 2025.12時点

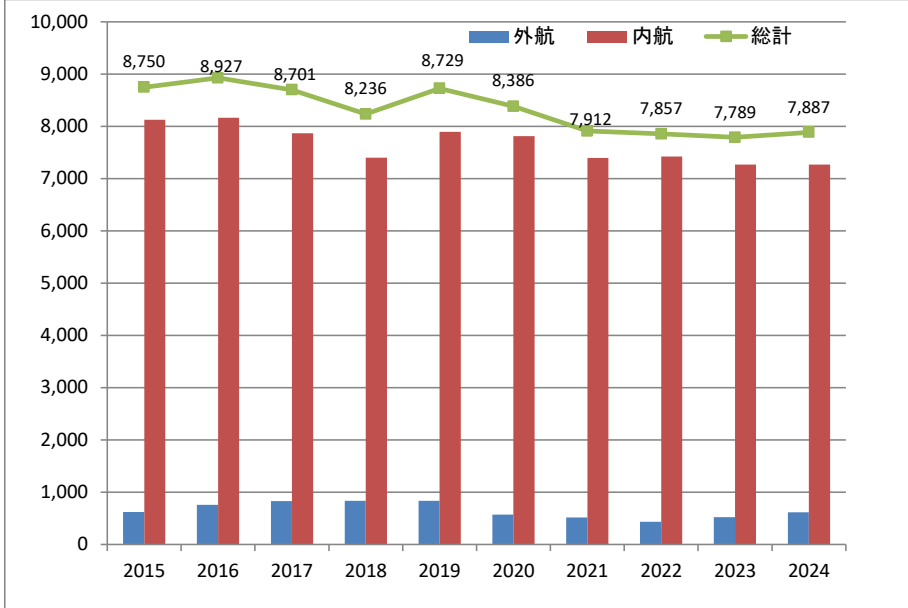
年		輸出 (Ex)	輸入 (Im)	移出 (Out)	移入 (In)	計 (Ttl)	総計
2015	実 (Loaded)	17,484	40,191	21,207	160,148	239,029	523,004
	空 (Empty)	20,884	46	210,484	52,561	283,975	
2016	実 (Loaded)	18,039	39,218	23,690	167,239	248,185	541,469
	空 (Empty)	19,730	760	215,531	57,263	293,284	
2017	実 (Loaded)	16,568	41,635	25,958	175,192	259,353	570,582
	空 (Empty)	21,649	786	227,579	61,215	311,229	
2018	実 (Loaded)	16,957	42,419	28,073	184,664	272,112	596,456
	空 (Empty)	23,917	2,613	233,621	64,194	324,344	
2019	実 (Loaded)	15,764	44,685	32,014	191,802	284,263	622,620
	空 (Empty)	25,763	1,915	240,979	69,700	338,357	
2020	実 (Loaded)	14,596	43,028	31,723	188,557	277,904	607,372
	空 (Empty)	26,125	1,429	234,263	67,652	329,469	
2021	実 (Loaded)	14,599	39,354	32,095	191,364	277,412	592,926
	空 (Empty)	24,622	1,726	227,266	61,901	315,514	
2022	実 (Loaded)	15,633	37,711	34,789	193,831	281,963	595,238
	空 (Empty)	23,070	2,037	224,158	64,011	313,275	
2023	実 (Loaded)	15,458	35,192	35,720	192,978	279,347	591,421
	空 (Empty)	21,309	1,929	223,457	65,380	312,074	
2024	実 (Loaded)	16,650	35,788	34,533	195,485	282,456	591,983
	空 (Empty)	20,182	1,293	225,356	62,697	309,528	

※ 端数処理のため合計とその内訳は一致しない場合がある。

コンテナ貨物年次推移図 Yearly Trends in Container Traffic (TEU) 2025.12時点



入港船舶隻数年次推移図 Yearly Trends in Number of Incoming Ships 2025.12時点



(輸出) Export (2024年)

国・地域名	トン数	百分比	品 種	トン数	百分比
台湾	282,329	57.72%	取合せ品	214,660	43.89%
韓国	95,055	19.43%	その他輸送機械	159,249	32.56%
中国	62,387	12.75%	再利用資材	35,729	7.30%
アメリカ	42,095	8.61%	金属くず	30,135	6.16%
ベトナム	7,260	1.48%	完成自動車	12,154	2.48%
			飲料	8,648	1.77%
			自動車部品	7,455	1.52%
その他			その他	21,096	4.31%
	489,126	100%		489,126	100%

2025.12時点

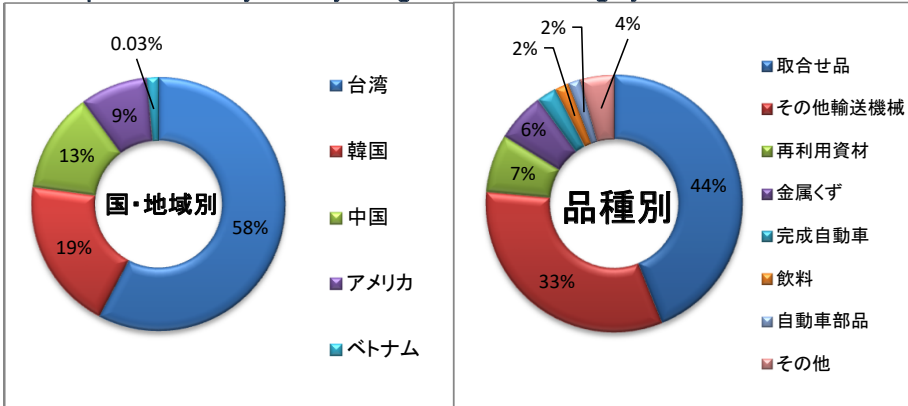
(輸入) Import (2024年)

国・地域名	トン数	百分比	品 種	トン数	百分比
アメリカ	260,513	35.61%	取合せ品	165,050	22.56%
台湾	220,382	30.13%	製造食品	90,677	12.40%
中国	94,984	12.99%	家具装備品	62,675	8.57%
韓国	90,204	12.33%	米	40,229	5.50%
タイ	32,404	4.43%	野菜・果物	39,517	5.40%
フィリピン	20,094	2.75%	木製品	34,700	4.74%
マレーシア	8,413	1.15%	染料・塗料・合成樹脂・その他化学工業品	32,518	4.45%
その他	4,490	0.61%	その他	266,118	36.38%
	731,484	100%		731,484	100%

2025.12時点

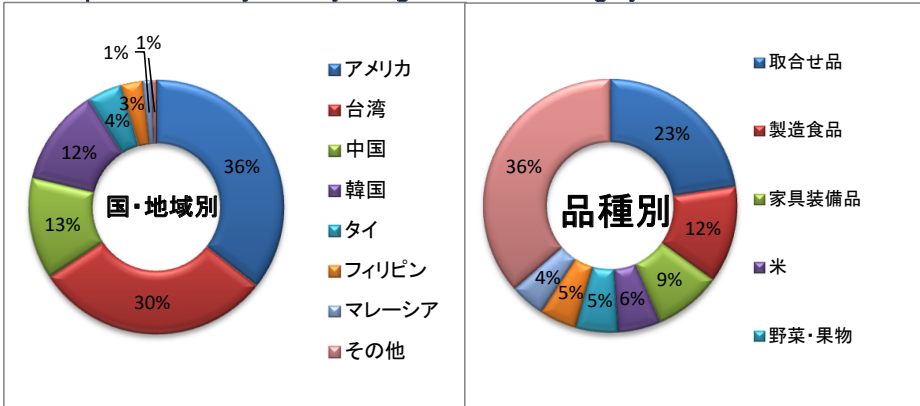
海上輸出貨物国・地域別、品種別構成 (2024年)

Sea-exported items by country & region and item category 2025.12時点



海上輸入貨物国・地域別、品種別構成 (2024年)

Sea-imported items by country & region and item category 2025.12時点



6 国際物流プロジェクト

《那覇港輸送効率化支援事業》

(事業目的)

那覇港輸送効率化支援事業は、那覇港を利用する国際コンテナ貨物の効率的な輸送パターンへのシフトを支援することにより、那覇港における国際コンテナ貨物の増大と那覇港を利用する輸送の効率化を促進することを目的としております。

(対象事業者)

国際コンテナ貨物を輸送する荷主または物流企業

(支援内容)

- シフト後における輸送費（海上輸送費・陸上運搬費・保管費等）の50%を補助（上限100万円）

(対象要件)

- ①国際コンテナを取り扱う荷主、物流事業者、商社等であること
- ②輸送パターンI型、II型に合致するルートであること
- ③那覇港を今後継続的に利用する計画であること



《那覇港新規航路誘致促進事業》

(事業目的)

那覇港新規航路誘致促進事業は、那覇港における新規の国際航路の開設を行う外航船社に対し、その費用の一部を支援することにより、那覇港における航路の拡充と国際コンテナ貨物の増大を図るとともに、コストやリードタイム等を検証し、今後の施策に反映させ、那覇港の海上運賃の低減に結びつけることを目的としております。

(対象事業者)

外航船社またはその日本代理店

(支援内容)

- ①新規航路開設：1寄港当たり最大150万円
- ②既存航路の再編：1寄港当たりの経費の50%を補助（上限75万円）

(対象要件)

- ①那覇港への新規寄港による国際航路の開設
- ②那覇港寄港航路の再編による、那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設

①那覇港への新規寄港による国際航路の開設

【イメージ図】

● 既存航路
● 新規/再編航路

【支援内容】

支援内容	上限等
・タグ、パイロット費用 ・編取り/放し費用 ・燃料費 等	1寄港当たり最大 150万円

②那覇港に寄港している航路の再編による
那覇港と新たな寄港地を直接結ぶ国際航路の開設

【イメージ図】

● 既存航路
● 新規/再編航路

* 他港を経由せずに寄港地として新たに那覇港と直接結ぶ国際航路に限る。

【支援内容】

支援内容	上限等
・タグ、パイロット費用 ・編取り/放し費用 ・燃料費 等	1寄港当たり最大 75万円

《那覇港公共国際コンテナターミナル運営事業》

沖縄振興計画に位置づけられた「民間主導による自立経済の構築」を支援するため、那覇港新港ふ頭地区の9号及び10号ターミナルを一体的に運営可能な能力を有する民間企業に長期貸付、事業者の創意工夫による効率的運営により、国際競争力の向上を図り、国際海上輸送コストの低減や航路誘致による産業立地、雇用拡大を実現することを目的としたプロジェクトです。

那覇港長期構想では、東アジアの中心に位置する優位性を活かし、著しい経済成長を続けるアジアの成長と活力を取り込み、東アジアの中継拠点港(サブハブ)としての展開を目指すこととしてとりまとめているところです。また、港湾施設の整備も進め、ガントリークレーン3基、リーファー電源126口の整備がされております。

2006年1月1日、日本で初めて、完全民間企業(Naha International Container Terminal, Inc.)による運営が開始され、2016年1月1日からは、国内有数の総合物流企業である三井倉庫株式会社が中核企業として経営に参入しました。

中核企業のこれまで培ってきた豊富な経験・人材と海外ネットワークを最大限活用し、新たな貨物獲得や貨物増加に向けた取り組みを強化しています。

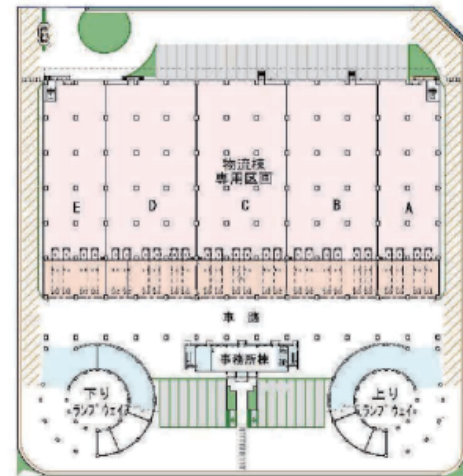
【那覇港公共国際コンテナターミナルの施設概要】

那覇港公共国際コンテナターミナル	No.9 Existing	No.10 Existing	No.11(計画) Planned
供用開始	1997年8月	2006年1月	—
岸壁延長	300m	350m	350m
奥 行	350m	350m	350m
実水深(No.11は計画水深)	14m	15m	15m以上
面 積	210,000㎡		128,000㎡
ガントリークレーン	3基 2号機：40t 16列対応 3号機：40t 18列対応 4号機：40t 18列対応		—
リーファー電源	440V：126口		—
ターミナルオペレーター	那覇国際コンテナターミナル(株) Naha International Container Terminal, Inc. (NICTI)		—



(令和5年度撮影)

《那覇港総合物流センター整備事業》



平面図

組成及び役割分担	(株)那覇港総合物流センター	代表企業【1社】	琉球海運(株)※運営業務実施)		
		構成企業【3社】	(株)ニチレイロジグループ 本社 那覇地域貨物運送協同組合 (株)沖縄日本管財(※維持管理・運営業務実施)		
協力企業【7社】	3階	沖縄港運(株)	マルエー物流(株)	琉球物流(株)	ドライ
	2階	沖縄県黒砂糖協同組合	(株)沖縄急送	琉球通運(株)	常温
	1階	(株)ニチレイ・ロジスティクス九州			冷凍冷蔵 (凡例)

敷地面積	約26,401㎡
建築面積	約15,370㎡
のべ面積	約45,828㎡
物流棟専用区画面積	各階約10,495㎡ 合計約31,485㎡

那覇港総合物流センターは、本県の生活・産業関連貨物の大部分を占める港湾貨物を取り扱う那覇港において、集貨・創貨を促進することにより取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化を図るとともに、流通加工等の新たな価値を生み出す付加価値型産業の集積を図る総合物流施設として2019年5月に開業しました。

現在、那覇港管理組合では、第Ⅱ期・Ⅲ期予定地の早期整備に向けた取組みを行っているところです。



(令和5年度撮影)

7 国際クルーズ拠点形成

《質の高いクルーズ観光の推進》

那覇港は、国内有数の国際クルーズ客船の寄港地であり、2019年は過去最高の260隻の客船が訪れ、寄港回数は全国1位を記録しました。

その後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けましたが、2025年の寄港回数は計205隻のクルーズ客船が那覇港を訪れ、順調に回復しております。

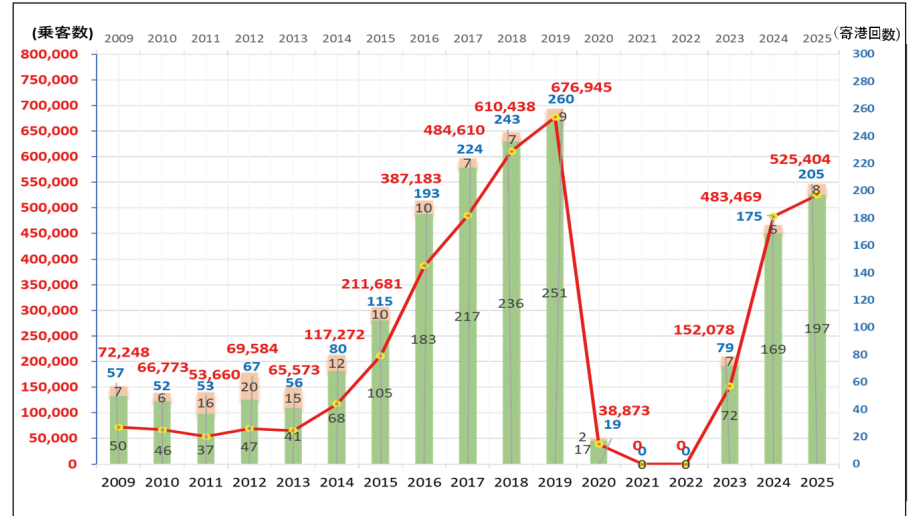
那覇港では、沖縄の魅力を発進する快適な玄関口の形成を目指し、関係機関等と緊密に連携し、フライ&クルーズやラグジュアリー船等の多様なクルーズ船の誘致のためのポートセールスの実施等、質の高いクルーズ観光の推進に向けた取り組みを進めております。

《第2クルーズバースの整備》

那覇港ではクルーズ客船の寄港が急増するとともに、クルーズ客船の大型化も急速に進んでおり、その対応が喫緊の課題となっております。

このため、那覇クルーズターミナルや既存施設での受け入れ体制の充実を図るとともに、更なるクルーズ客船の受け入れを推進するため、2016年（平成28年）に港湾計画の一部変更を行い、22万ト級まで対応可能な第2クルーズバースを港湾計画に位置付け、2019年（令和元年）より国と連携しながら官民連携による国際クルーズ拠点の整備を進めており、岸壁等の施設を令和5年2月に暫定供用しています。

クルーズ船寄港実績



8 港湾計画

那覇港管理組合では、令和4年4月に策定した「那覇港長期構想」の道行きとして、10年～15年後に目指す内容を取りまとめた港湾計画を令和5年3月に改訂しました。

「舟楫をもって万国の津梁となす、世界と沖縄・日本全国の人・物・文化を繋ぐ“みなと”」を基本理念とし、那覇港の現状の課題を解消するとともに、那覇港の強み・特性を活かし、アジア・沖縄・日本を繋ぎ、沖縄県のみならず日本全国及びアジアの成長に貢献する拠点港としての発展を目指します。

那覇港港湾計画改訂 (R5.3) における「港湾空間形成」の主な考え方

- ▶ 物流空間の沖合展開による拡充・再編・高度化
- ▶ 街側の内港エリアの高付加価値な賑わい空間創出
- ▶ 多様なクルーズの誘致(玄関機能) [船]
- ▶ 経済・生活・自然が共生する空間形成



9 臨港道路交通体系

《臨港道路交通体系》

那覇港では、各ふ頭間の有機的連携や、背後圏あるいは那覇空港への港湾貨物の円滑な輸送の確保のため臨港道路の整備を進めており、物流の効率化を図るとともに国道や県道との連携により、港湾周辺の主要幹線道路の混雑緩和にも寄与することが期待されます。

臨港道路若狭港町線は、那覇港と背後の主要アクセス道である臨港道路港湾1号線及び周辺の都市内道路の渋滞を緩和し、港湾関連交通の円滑化を図ることを目的とした道路です。当臨港道路は、西海岸道路の一部（那覇北道路）として位置づけられており、「那覇北道路・臨港道路若狭港町線」として事業を行っています。



10 那覇港の脱炭素化の取組

《那覇港港湾脱炭素化推進計画》

国が2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指すことを表明したことを踏まえ、那覇港管理組合では令和7年8月に、「那覇港港湾脱炭素化推進計画」を策定しました。

同計画は、那覇港に関係する企業等が、脱炭素化推進計画の策定を通じて民間同士の連携や官民の連携などを具体化することにより、脱炭素化への転換を加速することを目的としています。



11 那覇港の保安対策

《保安対策の実施》

SOLAS条約改正に伴い「国際航海船舶及び国際港湾施設の保安の確保等に関する法律」が制定され、2004年7月1日に施行されました。

同法律に基づき那覇港では新港ふ頭1号、5号、7号、9号・10号、12号岸壁及び泊ふ頭8号岸壁に制限区域を設け、保安対策を実施しています。

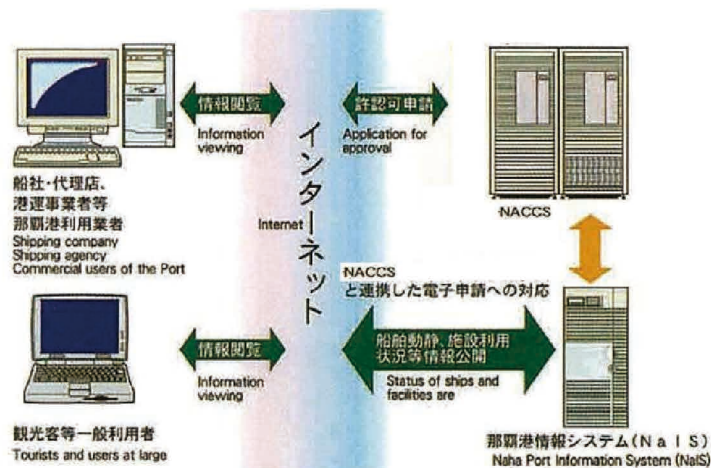
《保安対策の内容》

- ・ 立入制限区域の設定
- ・ 制限区域のフェンス設置、警備員、監視カメラ等による監視
- ・ 制限区域入場の際の目的や身分の確認
- ・ 岸壁前面の制限水域の設定



12 那覇港情報システム

- ・ 那覇ふ頭、新港ふ頭、浦添ふ頭への係留を希望する船舶は、バース会議により係留岸壁、入港時間を決定します。
- ・ バース会議においては、係留を希望する船舶の規模や入出港に係る注意事項等を確認し、岸壁の状況等を踏まえ係留可否を判断しています。
- ・ 那覇港情報システム(2004年より稼働)では、船舶入出港状況、港湾施設使用状況等の港湾施設利用情報などが取得可能となっています。
- ・ 那覇港情報システムは、輸出入港湾関連情報処理センター株式会社(NACCSセンター)にて管理・運営しているNACCSと連携し、シングルウィンドウ対応を行っており、インターネットを利用した港湾施設の許認可申請が可能となっています。

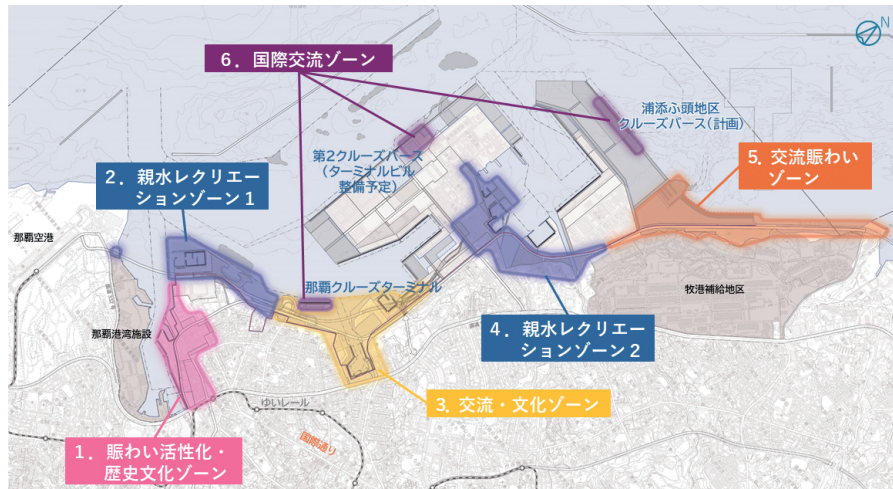


13 万国津梁のロマンあふれる交流のみなとまちづくり

《那覇港みなとまちづくりマスタープラン》

那覇港を取り巻く社会情勢の変化や上位関連計画の改訂等を踏まえ、有識者、まちづくり協議会、民間事業者や関係自治体等による検討委員会やワークショップを実施し、多様な意見を取り入れながら令和7年8月に那覇港みなとまちづくりマスタープランを改定しました。

本改定においては、関係自治体、地域住民や企業が協働することでウォーターフロント及び後背地が一体となって、長期構想で掲げる交流・賑わいの将来像「世界と沖縄、琉球の歴史・文化を繋ぎ、観光の高付加価値化に導く“みなと”」を実現することを目的として、そのための方針や取り組みをとりまとめています。



1. 賑わい活性化・歴史文化ゾーン

港・船の景観を臨む水辺空間を活かした賑わいづくりや観光遊覧船、琉球の交易の拠点の歴史を活かした三重城等の歴史文化の重要性を発信するなど、歴史・文化をテーマとして魅力を高めるとともに中心市街地から那覇港に人を引き込む賑わいゾーン

4. 親水レクリエーションゾーン2

水際の小型船だまりを活用した海洋レクリエーションのサービス向上、新港ふ頭の物流・産業機能を担う就労者の休憩地等と賑わいの住み分けを行い、水際線の親水レクリエーションを活かし、就労者や地域住民、観光客等の憩いの場であるとともに賑わいの活性化、景観の向上を促進するゾーン

2. 親水レクリエーションゾーン1

海洋レクリエーションのサービス向上、緑地の利活用や効率的な管理、後背地の公園との連携を図ることで、地域住民や観光客等の多様な来訪者が楽しむことができる、水際線の親水レクリエーションを活かし、地域住民や観光客等の憩いの場であるとともに賑わいの活性化を促進するゾーン

5. 交流賑わいゾーン

浦添ふ頭地区と後背地の牧港補給地区の跡地利用と一体的な利用ができるよう、新たに整備を推進し、都市近郊型海浜リゾートとして新たな賑わいを創出するゾーン

3. 交流・文化ゾーン

周辺離島航路ターミナルを中心にクルーズターミナルや漁港等が立地していることを活かし、離島航路やクルーズ船、漁船等、多様な船舶の利用者との交流や文化の発信に寄与する施設の整備・管理の推進や泊漁港将来像構想と連携を図りながら、交流・食文化等を発信するゾーン

6. 国際交流ゾーン

国外からの海上交通の結節点であるクルーズターミナルを拠点とし、クルーズ船の寄港にあわせた活性化、後背地の緑地との一体的な活用や那覇港エリアへのアクセス手段の充実を図り、地域の魅力を発信し、国際交流の促進を図るゾーン

15 港湾関係官公署及び諸団体

官公署

名称	所在地	電話番号
内閣府沖縄総合事務局運輸部	那覇市おもろまち2丁目1番1号	(098)866-0031(代)
“ 開発建設部	那覇第2地方合同庁舎2号館	“
“ 那覇港湾・空港整備事務所	“ 港町2丁目6-11	(098)867-3710(代)
国土交通省第十一管区海上保安本部	“ 港町2丁目11-1	(098)867-0118(代)
“ 那覇海上保安部	“ 港町4丁目6-5	(098)951-0118(代)
“ 沖縄気象台	“ おもろまち2丁目1番1号 那覇第2地方合同庁舎3号館	(098)917-7940
“ 門司地方海難審判所那覇支所	“ 港町2丁目11-1-8F	(098)868-9334
法務省福岡出入国在留管理局那覇支局	“ 樋川1丁目15-15	(098)832-4185
財務省沖縄地区税関	“ おもろまち2丁目1番1号 那覇第2地方合同庁舎3号館	(098)996-5506
厚生労働省那覇検疫所	“ 港町2丁目11-1	(098)868-8037
農林水産省那覇植物防疫事務所	“ “	(098)868-0715
“ 動物検疫所沖縄支所	“ “	(098)861-4370
沖縄県土木建築部港湾課	“ 泉崎1丁目2-2	(098)866-2395
“ 環境部環境政策課	“ “	(098)866-2183
“ 農林水産部水産課	“ “	(098)866-2300
“ 農林水産部漁港漁場課	“ “	(098)866-2305
那覇市都市みらい部都市計画課	那覇市泉崎1丁目1-1-9F	(098)951-3246
浦添市企画部港湾基地政策局港湾課	浦添市安波茶1丁目1-1	(098)876-1261
宮古島市建設部港湾課	宮古島市平良字下里108-11	(098)72-4876
石垣市建設部港湾課	石垣市浜崎町3丁目4番地	(098)82-4046

諸団体

名称	所在地	電話番号
(公社)沖縄海事広報協会	那覇市泊3丁目1-8-2F	(098)863-4604
(一財)沖縄観光コンベンションビューロー	“ 小祿1831-1	(098)859-6123
沖縄県教育庁実習船運営事務所	糸満市西崎1-1-1	(098)992-0139
(一社)沖縄県漁業無線協会	“ 西崎1丁目4-11	(098)840-3566
沖縄県港湾協会	那覇市泉崎1丁目2-2	(098)862-2395
(一社)沖縄県貿易協会	“ 久米2丁目2-11-13-2F	(098)866-9183
(一社)沖縄県木材協会	“ 楚辺1丁目12-15-301	(098)855-0020
(一社)沖縄港運協会	“ 港町2丁目12-22	(098)868-5421
(一財)沖縄港湾福利厚生協会	“ “	(098)862-2210
(一財)沖縄船員厚生協会	“ 前島3丁目25-50	(098)868-2784
沖縄植物検疫協会	浦添市伊奈武瀬1-11-1-2F	(098)868-5579
(一社)沖縄旅客船協会	那覇市泊3丁目1-8	(098)868-4449
(公財)海上保安協会沖縄地方本部	“ 港町2丁目12-22	(098)868-6616
(一社)全沖縄救難協会	“ 港町2丁目12-18	(098)863-1711
全日本港湾労働組合沖縄地方本部	“ 港町1丁目13-23	(098)868-3420
全日本海員組合沖縄支部	“ 若狭3丁目4-1	(098)868-1884
泊ふ頭開発株式会社	“ 前島3丁目25-1	(098)861-3341
那覇市沿岸漁業協同組合	“ 港町3丁目1-17	(098)861-2707
(一社)那覇市観光協会	“ 牧志3丁目2-10-1F	(098)862-1442
(一社)浦添市観光協会	浦添市勢理客4丁目13-1-4F	(098)874-0145
那覇市観光ホテル旅館事業協同組合	那覇市通堂町2-1	(098)861-4166
那覇地区漁業協同組合	“ 港町1丁目1-9	(098)868-5472
那覇水先区水先人会	“ 西2丁目1-1-3F	(098)868-1613
(一社)日本海事検定協会沖縄事務所	“ 港町2丁目6-18-6F	(098)862-2200
日本小型船舶検査機構沖縄支部	“ 泊3丁目1-8	(098)863-7002
(株)日本海洋資格センター沖縄事務所	“ 港町2丁目16-1-6F	(098)868-3400
(公社)琉球水難救済会	“ 泊3丁目1-6	(098)868-5940
NPO法人ナハシー・パラダイス協議会	“ 西1丁目19-1	(098)988-4122
波の上のみそら公園管理事務所	“ 辻3丁目3番1号	(098)863-7300

船舶・荷役関係 (50音順)

名称	所在地	電話番号
粟国村役場船舶課那覇連絡事務所	那覇市前島3丁目25-1-1F	(098)862-5553
アジア海洋沖縄(株)	“ 泊3丁目1-6	(098)868-5914
(有)ウエストマリン	“ 通堂町2-1	(098)866-0489
エキステック・エビセンター(株)	浦添市勢理客4丁目17-11	(098)870-0680
(株)OTK	那覇市港町2丁目16-1	(098)862-0021
(株)大阪旭海運沖縄出張所	“ 曙2丁目26-1	(098)862-7483
ラインポートエキスプレス	“ 安謝260-2-2F	(098)868-3159
沖縄海陸物流(株)	“ 港町1丁目13-13	(098)860-9000
(株)沖縄急送	浦添市西洲2丁目6-4	(098)873-0910
沖縄港運(株)	那覇市西2丁目1-1-1F	(098)868-4151
(有)沖縄国際海運 那覇支店	“ 港町1丁目207(国際CT内)	(098)869-6618
沖縄サニタリー(株)	“ 西2丁目13-15-1F	(098)868-8458
(有)沖縄シップスエージェンシー	“ 通堂町2-1-2F	(098)866-7890
沖縄砂利採取事業協同組合	宜野湾市宇字地泊668	(098)890-2904
沖縄第一倉庫(株)	那覇市西2丁目26-18	(098)868-4808
沖縄荷役サービス(株)	“ 港町1-16-20	(098)918-0006
(株)沖縄ポートサービス	“ 港町1丁目2-2	(098)864-5888
沖縄ロジテム株式会社	“ 港町2丁目16-10	(098)860-1946
海邦港運(株)	“ 港町2丁目6-18-7F	(098)861-4153
海洋 SHIPPING(株)	“ 港町2丁目16-1-6F	(098)864-2831
(株)ギマ石油	“ 泊3-1-8	(098)863-0036
久米商船(株)	“ 前島3丁目16-9	(098)868-2686
座間味村役場船舶・観光課那覇出張所	“ 前島3丁目25-1-1F	(098)868-4567
(株)第一港運	浦添市西洲2-22	(098)917-5477
大共港運(株)	那覇市西2丁目20-17	(098)868-5345
大東海運(株)	“ 前島3丁目25-5-1F	(098)861-0515
東亜運輸(株)	“ 港町3丁目7-50	(098)868-0231
渡嘉敷村役場船舶課那覇連絡事務所	“ 前島3丁目25-1-1F	(098)868-7541
トランスネット沖縄(株)	“ 通堂町2-1	(098)868-9598
(株)那覇港総合物流センター	“ 港町1丁目26番1号	(098)860-2020
那覇国際コンテナターミナル(株)	“ 港町1丁目27-1	(098)867-5931
那覇船舶給水(資)	“ 識名3丁目15-13	(098)868-8247
(株)那覇タグサービス	“ 西2丁目1-1	(098)868-4727
那覇埠頭倉庫(株)	“ 西2丁目1-27	(098)868-4316
南西海運(株)	“ 港町2丁目6-18-7F	(098)868-1848
野村海事事務所	“ 前島2丁目21-13-11F	(098)861-0057
マリアンシップping ジャパン(株)沖縄駐在事務所	“ 港町2丁目16-1-3F	(098)868-8088
マックスライン(株)沖縄営業部	“ 通堂町2-1	(098)862-8774
(株)マリン観光開発	“ 泊3-14-1	(098)869-2241
マルエーフェリー(株)	“ 通堂町2-1	(098)868-7727
マルエー物流(株)	“ 通堂町2-1	(098)861-1884
丸三海運(株)沖縄営業所	浦添市西洲2丁目24(2号上屋)	(098)942-5260
南日本汽船(株)	“ 西洲2丁目4-3	(098)876-3300
(有)陸運	中頭郡北谷町字宮城1番地782-701	(098)936-0295
琉球海運(株)	那覇市西1丁目24-11-3F	(098)868-8162
琉球港運(株)	浦添市西洲2丁目15	(098)871-3011
琉球物流(株)	那覇市港町2丁目17-13	(098)861-4700